



令和3年1月号

# 以心伝心

い しん でん しん

第76号

令和2年12月1日現在 人口15,194人 65歳以上人口2,894人 高齢化率19.0%

編集発行 社会福祉法人 川越町社会福祉協議会 〒510-8123 三重県三重郡川越町大字豊田一色314  
TEL(059)365-0024 FAX(059)365-2940 E-mail: kawafuku@ccnetmie.ne.jp  
HP : <http://www.kawagoe-shakyo.com>  
facebook:<https://www.facebook.com/kawagoe.shakyo/>

川越町社協

検索



## 謹賀新年

川越釣り桟橋より撮影

### 新年のご挨拶

社会福祉法人川越町社会福祉協議会

会長 加藤 志保子



新年あけましておめでとうございます。  
皆さま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
また、皆さま方には、日頃から川越町社会福祉協議会(社協)に對しまして、温かいご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年は、日本はもとより世界中が新型コロナウイルス感染症の対策に追われました。社協におきましても、感染対策を徹底しながら業務を行いました。予定していた色々な行事等を中止とせざるを得ず、町民の皆さま方には御不自由をおかけする事になりました。

一方、延期や縮小をしながらも生活・介護支援サポーターや福祉協力員の養成は実施致しました。その時その時の情勢を鑑み、できることを今できる形で担っていただいています。みんなが集まるのが難しいこんなときだからこそ、地域のつながりやささえあいの大切さを改めて実感しましたので、今後も引き続き取り組んでまいりたいと思います。

また、可能な限り、地域において自立して日常生活ができるよう包括支援事業(認知症予防等)にも取り組んでいます。昨年度はほとんど取り組めませんでした。子育て中の母親に向けた「つながり」や「いきぬき」の場づくり(happy share party等)も改めて取り組んでいきたいと思えます。地域において「孤独・孤立をつくらない」ためのネットワークをつくり、町の掲げる将来像「みんなで支えよう笑顔あふれる元気な町かわごえ」が実現されるよう町行政と連携しながら、地域福祉活動に取り組みます。

誰もが川越町にすくすくと暮らしたい、住んでよかったと思っていただけのような社協の使命である地域福祉を職員一丸となって進めてまいりますので、皆さま方の一層のご支援ご協力を賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、この一年が皆さま方にとって、良い年でありますよう心からお祈りいたしまして新年のご挨拶と致します。

新型コロナウイルス感染拡大で、家族以外の人と顔を合わせる機会が減ったという方が多いのではないのでしょうか。少しでも早い終息を祈りますが、恐らく長引くであろうコロナ禍。地域における活動で大切な部分である人と人とのつながりは、これまで顔の見える関係で交流を重ねることで築いてきました。交流の機会が制限される中で、知恵を絞る人たちもいます。本号では今、そしてこれからも続けられる取り組みの一部をご紹介します。

### ボ ランティアサークル スリーエル × 配食サービスを利用されている方々

老人クラブ等高齢者の方々と手作りの料理や呈茶を通じて交流する活動を主にされていたスリーエル。コロナ禍が長引く中で、集まること、共に食べることが難しく、対象としている方が重症化するリスクが高いと言われる高齢の方…これまでの活動を全て否定された気分になりましたとスリーエルのメンバーの方は語ります。一時はメンバー間での集まりも中止していましたが、昨秋より定例会を再開。今自分たちができることは何か?と意見を重ね合うようになりました。集まることで知恵はもちろん、笑いも生まれ、仲間と話す大切さを実感。月1回の定例会にて、高齢者の方々と「手紙」を通じて交流してみようと町の配食サービスを利用される方へのお弁当に添える手紙を書く活動が



1枚1枚心を込めて書いています

11月よりスタートしました。お一人暮らしの方や高齢者のみ世帯の方(利用条件の詳細は直接お問い合わせください)等の安否確認を目的のひとつとし、弁当をお届けする配食サービス。外出や人との交流がこれまでより減っていることが想像され、「そのような方々にほんの少しでも心がほっとする瞬間を提供できれば。そして私たちも相手を想い活動することで元気になるからお互いさま」と活動への想いを伺いました。様々な意見を頂きながら、これからも活動を継続される予定です。

### 川 越町ボランティア連絡協議会 × コロナ禍で生活にお悩みの方々

昨夏、新型コロナウイルスの影響を受け生活資金に悩み、社協の窓口へみえる方への物資支援に取り組んだボランティア連絡協議会。コロナ禍が長引く中、必要とされる方の元へ届いてほしい、ボランティア活動としても単発ではなく継続的に取り組みたいという想いから、自宅に多めにある食料品、日用品を集め再度ご寄付をいただきました。「やるなら継続的にやらないとね」と多数のボランティアからのお言葉。頂いた物資はボランティアによる手書きのメッセージとともに、必要とされる方へ社協職員よりお渡しします。「いつか自分も地域の方に役立つようなことをします」と声を頂く等、物資以上の想いが届いています。今後、社会情勢を鑑み必要に応じて形を変えての取り組みを考えています。社協へは個人の方からも食料品等のご寄付を頂いています。町内の福祉施設や必要とされる方へお渡しすることで、優しい気持ちをお届けします。



お米を小分け中



10月下旬、川越南小学校3年生の総合学習の時間。講師として教壇にたつのは、分身ロボット「OriHime(オリヒメ)」。

人工知能(AI)ロボットではなく、「ひと」がパソコン、スマートフォン、タブレット端末を使い遠隔操作するロボットです。OriHimeは自分の分身になり、会いたい人に会い、行きたいところに行くことができます。

今回、社協職員が学校へ伺い「ふくしの授業」を行いました。授業のテーマは、「みんな違ってみんないい」自宅からOriHimeを操作し、講師を務めた川越町在住の柳田氏はこう語ります。

「まだ広くは知られていないロボットを使うということで、多少の不安はありました。ところが、心が柔軟な子どもたちが元気いっぱい私を迎え入れてくれているのが伝わり、楽しい雰囲気の中、気持ちよく話をさせて頂きました。自宅からの登壇とはいえ、OriHimeを介することでまるで私が教室にいるような感覚を感じ取ってくれたようで、好奇心旺盛な子どもたちから質問を次々と受け嬉しい悲鳴でした。今回の出会いで子どもたちそれぞれが何かを感じ、今後の成長過程で良いきっかけになることを願います。私自身も子どもたちからたくさんの元気をもらい学ぶことができました。今後もこのような交流が継続することを楽しみにしています」



障がいがあってもなくても、人はそれぞれ違って当たり前。その違いを認め合い、同じ地域で共に暮らすことを考えるための出会いの場でもあった今回の授業ですが、柳田氏の根底にある想いはどのようなものでしょうか。「どんな障がいであろうとも地域の人たちと交流することが当たり前であるべきだと思います。また、同世代のつながりだけではなく、世代を超えたつながりの強い地域は活気があり、災害等いざという時には大きな力を発揮します。普段から挨拶は勿論、自然に声をかけ合い、理想は町内、少なくとも地区内の人は皆知り合いになれるような町になると良いですね」

授業を終えた子どもたちからは、「みんな違っていいという言葉が心に残りました。僕にはできて友達ができないことがあるけど、友達と僕は違うから自分と違っていいと思いました」「その人ができないことで、自分ができることを手伝おうと思う」等の声とあわせ、「柳田さんは人を楽しませるおもしろい人」という感想も多く、世代を超えた交流をすすめるきっかけの場になったのではないのでしょうか。



コロナ禍がきっかけでOriHimeが登壇しましたが、柳田氏とOriHime、様々な方との交流は今後も続きます。



福祉協力員フォローアップ研修

隣近所で気になる方や心配な方の把握、声かけ、見守りを主な活動内容とする地域の見守りボランティア、福祉協力員。前回10月号の特集「今 わたしたちができること」にて活動内容を紹介しました。令和3年1月より新たに8名が加わり、あわせて69名の福祉協力員が中心となり川越町の見守りの輪を広げています。

### 福祉協力員フォローアップ研修

10月、福祉協力員を対象に研修を行いました。感染対策を講じ、地区毎に3回にわけ、更に時間を短縮しての開催。限られた時間での研修となりましたが、コロナ禍だからこそ、ご近所の見守りが必要であること、身体的距離は確保しつつ心の距離は縮めていく、そんなお話の中で改めて福祉協力員としての活動を振り返り、今後の活気に繋がる時間になっていれば嬉しく思います。受講された方からは「コロナ禍での活動のモチベーションがあがりました」「活動を通じてご近所の方に目を向けることが以前より多くなりました。そのうち自分も見て頂きたいのであたたかく見守りたいと思います」「久しぶりに会えた方もみえ、出席してよかったです」等のお声を頂きました。今後も皆さんのご意見を頂き、川越町になくってはならない活動のひとつになるよう努めてまいります。



### 福祉協力員養成講座



令和2年度で5年目を迎える本講座ですが、全2回を昨秋に開催。コロナ禍の現状を踏まえたお話が中心となり、皆さん熱心に講師のお話に耳を傾けてみえました。福祉協力員は大事に至る前に専門職へ繋ぐ予防的な支援を担う役割であること、「人は人に必要とされることを必要とすること」等を多くの具体例を用いてレクチャーしてくださいました。川越町にていつまでも今のあたたかい地域のつながりが続いていくように今後も養成講座を開催していく予定です。

### 委嘱式

令和3年1月より新たに福祉協力員として活動される方、継続して活動される方に本会会長より委嘱をさせていただきました。普段の生活の中でできる見守り活動を通じて、福祉協力員の方自身の生活もより豊かになることを切に願います。



## 北小学校にてふくしの授業



9月下旬、川越北小学校4年生の総合学習にて、ふくしの授業を行いました。テーマは「誰もがいきいきと暮らす社会を考えよう」。事前に視覚障がいに関する調べ学習や、当事者の方からの話を通じて学びを深めた子どもたちに、視覚障がいのある方の生活を支えるひとり、ガイドヘルパーが講師を務めガイドヘルプの方法、声のかけ方、普段気をつけていること等をお話しました。「ガイドヘルパーの仕事は大変?」「やりがいはどんなこと?」等子どもたちからの具体的な質問に加え、「障がいのある人をどう思う?」という質問には「同じ「人」。勉強させてもらうことがたくさんあります」と子どもたちに返答。「ふくし」は

「ふだんのくらしのしあわせ」とも言い、特定の人のためのものではなく、みんなのためのものです。障がいの有無に関わらず、困っている友達がいたら声をかけあうことの大切さを伝える時間となりました。子どもたちの優しさが町全体に広がることを願っています。

## 新型コロナウイルスの影響を受けお悩みの方の相談に応じています

三重県社会福祉協議会が実施する緊急小口資金等の特例貸し付けの窓口として、新型コロナウイルスの影響による休業や失業で生活資金にお悩みの方の相談に応じています。必要な方へ食料を支援することも可能です。長引くコロナ禍にてお困りの方はお一人で抱え込まずに社会福祉協議会窓口までご相談ください。事前にお電話を頂くとスムーズにご案内できます。



## ハピママ ミーティング再開

子育て中のお母さんによるお母さんのためのグループ、ハピママ。約8ヶ月ぶりのミーティングを行いました。お母さんは子どもの話がメインになりがちですが、ハピママではお母さん自身の話を大切にしています。



託児後ママとの再会にっこり

たわいもない話をしたり、これからハピママとしてできることを話したり、子どもを追いかけずに話に集中できる時間です。毎日子育てを頑張るお母さん、少し息抜きをしませんか? ミーティング時は感染対策を行い無料でお子様をお預かりしています。随時メンバー募集中ですので、ご興味のある方はお気軽に社会福祉協議会までお問い合わせください。



## マスクのご寄付 ありがとうございます

以心伝心8月号にて、ご自宅にある使用しないマスクの募集をさせていただきました。たくさんのご寄付を頂きありがとうございます。コロナ禍でマスクが手放せなくなっている中でたくさんのご寄付に本当に感謝しております。お預かりしましたマスクは町内の福祉施設等にお渡しします。



## 川越町ことぶき人材センター

### 会員募集 あなたの特技 活かしませんか？

- 条件 川越町在住で60歳以上、働く意欲のある元気な方
  - 仕事内容 企業内軽作業、草取り、剪定作業等
- 男女問わず募集しています。詳細はことぶき人材センターまでお気軽にご連絡ください。

**同時募集** 一般のご家庭、企業の皆さまへ  
草取りや工場、店舗内軽作業等承ります。まずはご相談ください。

担当：太田・駒田 ☎：365-0024



## ふくしのバトン 川越いきいきそば打ち会

### ●活動内容について教えてください

私たちは、素人のそば打ちボランティア団体です。活動において大切にしている3つの活動理念をご紹介します。

#### 1 地域活性化への寄与と貢献

ボランティア団体として登録し、地域活動を通じて「打ちたて、茹でたて」のそばを提供しています。本会の活動が町の活性化に少しでも寄与し、貢献できればと願っています。

#### 2 仲間づくり

現在の会員は男性11名、女性9名の計20名。同好会とは異なり、ボランティア活動としてそばを打つ理念に共感し、美味しいそばを自分で打てることを目的とした仲間が集まっています。

#### 3 人格形成

この点を最も大切にしています。打ったそばは家族の他、隣近所や知人に食べてもらっていますが、そば打ちは「清潔第一」「食べてもらう人への思いやり」を持った一連の作業です。相手を思い、美味しいそばを打つためには知識と技能が必要。日々自己研鑽に励んでいます。



男性陣にインタビュー。  
コロナ禍の前はお酒の場で語り合うこともあったそう

### ●皆さまへのメッセージをお願いします

平成20年に活動を開始し、約10年かけて活動の基盤を作ってきました。当会の理念に賛同してくれる方を随時募集しています。男性で退職後、地域と繋がりたい、自分の居場所が欲しいという方も大歓迎。ご興味のある方は毎週月曜日（第5週目を除く）に「ボランティアハウスささえあい」でそばを打っていますのでお気軽にお越しください。現在はコロナ禍で積極的な地域活動を控えています。今後活動の場を広げて地域に「そばの文化」を広めていきたいと思っています。

 次は 川越町おもちゃ診療所へバトンを繋ぎます。 

問い合わせ先 川越町社会福祉協議会 ☎365-0024

## 善意のご寄付ありがとうございました 令和2年9月1日～11月30日

金 33,000円	(株)マンマルシステム	代表取締役	中西充	様
フェイスシールド、布マスク			匿名	様
冷やむぎ、そうめん	川越郵便局他9局、(有)渡辺手延製麺所		匿名	様
未使用衣料品			匿名	様
米20Kg			匿名	様
食料品、日用品	川越町ボランティア連絡協議会		匿名	様
介護用尿取りパット			匿名	様



お寄せいただいたご寄付は、地域福祉活動推進のために大切に使用させていただきます。

## 編集後記

去年は急激な変化を求められた1年でした。今年も変化を維持した生活を続けていく事になると思います。本号の表紙は力強く前向きに生きることで幸多き1年になるよう願いを込めて撮影しました。今年も変わらず地域の為に出来ることを積み重ねていきます。この「以心伝心」も新年度に向けてリニューアルを計画中です。より魅力的な誌面となる次号に御期待ください。

編集委員 I